

基本方針1 魅力あるコンテンツづくりと売れる商品造成

KPI指標	基準値(R1)	現状値(R2)	R3	R4	R5	R6	目標値(R7)
万田坑入坑者数	39,780人	15,132人	19,384人	19,575人			5万人
宮崎兄弟生家・資料館入場者数	2,031人	1,557人	1,359人	1,871人			7千人
荒尾干潟水鳥・湿地センター入館者数	16,061人	13,282人	8,897人	16,014人			3万人
子ども科学館入館者数	3,153人	1,988人	1,525人	2,459人			1.5万人
まるごとあらお物産館販売額	841万円	654万円	614万円	74万円			1,020万円
修学旅行宿泊校数（小・中・高）	103校	39校	108校	118校			90校
訪日宿泊客数	10,044人	1,147人	106人	396人			3万人

基本施策	事業名	実施主体	概要
多 種 多 様 な コ ン テ	新たな体験プログラムの造成		
	炭鉱電車整備事業	荒尾市	三井化学から寄贈を受ける炭鉱電車について、R4に万田坑敷地内に設置する工事を行った。R5から見学者は往時の専用鉄道敷の様子を目視で体感することができるようになる。電車の運転室には、2両のうち1両は一般客も乗り込めるようにする。
	体験型観光推進事業	荒尾市	地域資源を活用した体験型観光コンテンツ造成及びモニターツアーの実施。特に荒尾干潟に着目し、「テラー乗車体験」「マジック釣り体験」等の既存プログラムをブラッシュアップし付加価値を高めるとともに、新規プログラムの開発を図る。
	イベントを活用した魅力づくり		
	JR九州ウォーキングとの連携 (春：5/4、秋：11/3)	九州旅客鉄道荒尾駅	春は荒尾長洲地域資源活用推進協議会との共催で実施。当該協議会作成「感動ウォーキング」をコースに設定することで荒尾干潟の魅力を体感してもらい、併せて湿地センター及び金魚と鯉の郷広場で体験型のおもてなしを実施することで施設への誘客を図る。 秋は荒尾駅と万田坑を結ぶコースを企画予定。
	大型イベントの企画・運営	荒尾市観光協会	デジタル掛け軸 7月8日 荒尾夜市（荒炎祭後継事業） 8月5日 秋イベント 10月1日 秋イベント2 11月3日 春まんまるしえ 3月19日

あらお梨の花ロゲイニング	あらお梨の花元気ウォーク実行委員会	特産品の「荒尾梨」の花が鑑賞できるスポットや、その他の観光スポット、飲食店等の30～40カ所をチェックポイントに置き、制限時間2時間で周回するイベントを開催する。景品は梨や、協賛いただいた市内の各スポットの商品を贈呈することで、市内事業者と連携したPR効果を図る。また、チェックポイントでは写真を撮ることによってポイント獲得とし、撮った写真を使ったフォトコンテストを開催し、SNSでの発信を
ご当地グルメ・お土産品開発		
ご当地グルメPR事業	荒尾飲食店組合	YouTubeチャンネル「うまかもん荒尾」にて、組合各店舗の紹介動画を配信し、認知度と集客力の向上を図る。また、万田ハイボールのPRに取り組む。
フードフェスタの開催	荒尾飲食店組合	フードフェスタを開催し、ご当地グルメのPRを図る。
地域物産品開発と販売	荒尾市観光協会	冷凍商材、レトルト食品を中心とした荒尾ブランド20アイテムを目標に開発を進める。 市内事業者と連携し、お土産品、お中元・お歳暮といったギフト商品を開発する。
荒尾梨の販路拡大推進事業	荒尾市	「あきづき」を主体とした共販体制を推進し、現在のトレンドを踏まえたプロモーションを展開することで、荒尾梨の販路拡大を図る。
マガキの養殖支援事業	荒尾漁業協同組合	マガキの商品化に向けて、生産数の確保や品質向上等を目的とした養殖試験を実施する。

既存体験プログラムのブラッシュアップ・ガイドの確保・育成		
観光関係事業者を対象としたホスピタリティ向上研修の実施	有明定住自立圏域広域観光部会	体験プログラム実施主体等の観光関連事業者を対象としたホスピタリティ向上研修を実施し、圏域全体の受け入れ体制の強化を図るとともに相互連携を深める。
万田坑ガイド	荒尾市	既存のガイドの高齢化が進み、新しい担い手の発掘と育成に取り組む。炭坑電車の設置に伴い勉強会を実施し、高付加価値を図る。加えて、世界遺産検定を実施し、万田坑に対する関心と世界遺産価値への理解向上を図る。
万田坑子どもガイド	万田小	万田小学校の6年生の児童による子どもガイドを実施する。イベントの開催時や団体予約が入っている日程などを中心に、年に数回行う。コロナ禍では、学校同士でのガイド交流が増え、三池炭鉱がある大牟田市の小学校や、熊本県の取り組みで三角港のある三角小学校との交流も実施している。今年度も引き続き実施する
体験型観光推進事業【再掲】	荒尾市	地域資源を活用した体験型観光コンテンツ造成及びモニターツアーの実施。モニターツアーによる既存体験プログラム（「テラー乗車体験」「マジック釣り体験」）の試行により、実施主体の運営体制強化や付加価値の高い内容へのブラッシュアップを図る。
教育旅行に向けたプログラムのブラッシュアップ・ガイドの育成		
マジック釣り体験等受入体制強化事業	荒尾玉名教育旅行推進協議会	「マジック釣り体験」をはじめとする屋外型アクティビティについて、雨天時でも満足度の高いプログラムが提供できるよう、受入体制の強化を図る。

旅行商品の造成

旅行者等と連携した旅行商品造成（国内・海外）		
旅行展示会	熊本県観光連盟	ツーリズムEXPOジャパン出展（東京）令和5年10月26～29日 大相撲九州場所観光PR（福岡）令和5年11月12～26日 九州旅行博覧会出展（福岡）令和6年2月24～25日
九州観光推進機構主催の国内旅行会社向け観光素材相談会	熊本県観光連盟	半期に1度（8月と3月頃）観光素材集を作成し、東京・大阪・福岡にて相談会を実施。
バスツアー誘致推進事業	荒尾市	インバウンドにおいて、本市を訪問する旅行商品の造成を促進する為、一定の条件を満たす団体バス旅行を実施する旅行事業者に対し補助を行う。
FAMトリップの実施	荒尾市	地域資源を活用した体験型観光コンテンツ造成及びモニターツアーの実施。 コンテンツ造成にあたっては、旅行会社等の関係者に実際に体験してもらうファミトリップ（Familiarization Trip）を実施し、課題等を聞き取りブラッシュアップを行うとともに商品造成の機会につなげる。また、造成したコンテンツについて消費者の受容性調査を行うため、モニターツアーを企画販売する。
着地型観光商品・ツアーの造成		
着地型ツアーの造成	荒尾観光振興	試験的に荒尾市の観光資源を活用した「着地型体験商品」の企画・販売を行う。体験商品の造成、販売が行われない要因が高単価の販売をしてこなかった事であることを踏まえ、試験的に高単価商品の造成と販売を行う。

基本方針2 情報収集の段階を踏まえた効果的なプロモーション

KPI指標	基準値(R1)	現状値(R2)	R3	R4	R5	R6	目標値(R7)
荒尾市観光協会HP閲覧数	－	90,450件	116,609件	193,861件			99,500件
荒尾市観光協会Instagramのフォロワー数	－	890人	1,386人	1,600人			2,090人
観光アプリダウンロード数	－	－	18件	771件			5,000件

基本施策	事業名	実施主体	概要
「旅マエ」に対する情報発信の強化	SNS等による情報発信の強化		
	国内向け情報発信事業	熊本県観光連盟	職員の日常を紹介するInstagramにて紹介（不定期）
	国内向け情報発信事業	荒尾市観光協会	地域情報収集と地域情報発信（各種SNS運用、GMP、公式LINEアカウント、HPの一括運営）
	海外向け情報発信事業	熊本県観光連盟	Facebook（英語・繁体字・タイ語）、Instagram及びNAVERブログ（韓国語）にて週2回以上、観光情報を発信
	各種HPの充実		
	イベント情報等掲載	熊本県観光連盟	「イベント」ページにて荒尾市個別のイベント情報を掲載。 「旅のおすすめ記事」ページにて毎月のあらたまおでかけ情報を掲載。 「旅のおすすめ記事」ページにて年1回あらたまピックアップ記事掲載。
	動画による情報発信の強化	荒尾市観光協会	荒尾市内の旬の商品やスポット等についての動画を作成し情報発信を強化する。
	観光パンフレットのHP掲載	荒尾市観光協会	本市で作成しているパンフレット等の情報発信資料について、観光協会HP上で閲覧できる環境整備を行う。
	パブリシティ獲得に向けたメディア等との関係構築		
	メディア等への情報提供	荒尾市	随時、各メディア等への情報提供を行い、取り上げてもらいやすい動機とする。
官民連携による観光キャンペーン等の展開			

	観光キャンペーン	荒尾市観光協会	荒尾市観光協会、グリーンランドリゾート、荒尾市が連携して観光キャラバン隊を結成し、九州内各都市を訪問して、各メディアを通じて各都市の方々に観光PRを行う。
「旅ナカ」での情報発信の強化	観光パンフレットやアプリ等を活用した情報発信の強化		
	観光情報季節情報誌作成事業	荒尾市観光協会	季節ごとの観光情報を掲載した情報誌「こな」を年2回発行する。
	写真撮影用スタンドの設置	荒尾市	万田坑や干潟の夕陽、四山神社から見る宗巴寺、写真映えするスポットにスタンドを設置し、「# 荒尾ジェニック」とコラボしたフォトコンテスト等を行い、写真撮影を促すとともに、撮影した写真を観光アプリやSNSなどを通じて発信してもらうことで、さらなる拡散を図る。
	観光パンフレットの作成	荒尾市	観光パンフレットについて作成から9年が経過しているため内容を見直し、「旅ナカ」だけでなく「旅マエ」「旅アト」それぞれへ効果的な情報発信ができるよう、リニューアルする。
	グリーンランドとのタイアップ	グリーンランド 荒尾市	R5春催事の時に、ショーが行われるグリーンスタジアムのLEDスクリーンで「# 荒尾ジェニック」の動画を放映しPRを図った。継続的にR6春催事も放映を実施する。
営業活動	教育旅行誘致に向けた営業活動の実施		
	九州観光推進機構主催の教育旅行素材説明会	熊本県観光連盟	夏頃実施予定。名古屋・大阪・東京・広島を訪問
	セールスの実施	熊本県教育旅行受入促進協議会	年数回実施。回数方面はその年により異なる。
	修学旅行へのくまモン出動支援	熊本県観光連盟	受協会員のホテルを利用の学校にはくまモンのお出迎え対応。
	修学旅行現地視察アテンド	熊本県観光連盟	視察先は旅行会社のリクエストベース。受協施設利用等の条件で助成金あり。
	教育旅行営業活動	荒尾玉名教育旅行推進協議会	これまで取り組んできた関西方面や、広島市、岡山市などの中国方面を中心に、令和6年度及び令和7年度の受入れに向けた営業活動を行う。また、熊本県と連携して広く営業活動を実施する。マジック釣り体験やテラー乗車体験などの学習系のプログラムとグリーンランドなどのエンタメ系の情報を併せて発信することで、

等
の
実
施

修学旅行受入対応	荒尾玉名教育旅行推進協議会	今年度予約が入っている来訪校について、おもてなしを十分に行うとともに、終了後のお礼状送付などにより継続的な関係性の構築を図る。
訪日旅行誘致に向けた商談会等の実施		
台湾現地旅行博ブース出展	熊本県観光連盟	令和5年6月2日～6月5日 高雄市旅行公会国際旅展 令和5年11月3日～11月6日 台北国際旅行博 令和5年11月17日～11月20日 大台南トラベルフェア ※観光パンフレット配布、観光情報提供
九州インバウンド観光商談会	荒尾市	九州観光推進機構が主催する国内ランドオペレーターとのオンライン商談会に参加し、本市の観光スポットの紹介と旅行商品の造成につなげる。
海外への販路拡大		
香港での農水産物プロモーション	荒尾市	香港の割烹櫓杏での荒尾フェアの開催や香港における農水産物の市場調査を実施し、販路拡大の可能性を検討する。

基本方針3 周遊しやすい環境の整備と宿泊の促進

KPI指標	基準値(R1)	現状値(R2)	R3	R4	R5	R6	目標値(R7)
JR荒尾駅乗車人員	1,023人/日	776人/日	835人/日	未公表			1,500人/日
おもやいたクシー年間利用者数	－	4,056人	11,830人	13,910人			1.4万人
Arao Pay導入事業者割合（飲食・サービス・小売り）	－	60%	44%	69%			90%
宿泊客数	164,919人	121,970人	119,915人	144,880人			20万人

基本施策	事業名	実施主体	概要
ストレスなく楽しめる環境整備	二次交通の利便性向上		
	おもやいたクシー利用促進事業	荒尾市	観光×交通アプリ「おでかけあらお」や市のSNS等を活用し、おもやいたクシーの利便性について広く周知する。商業施設を絡めたモビリティマネジメントの実証実験を行う。
	観光×交通アプリによる観光周遊促進事業	荒尾市	観光×交通アプリ「おでかけあらお」のおもやいたクシー予約機能を活かし、観光や商業等と連携することでMaaSを強化する。
	観光案内機能や誘導サインの整備		
	観光案内看板データベース作成事業	荒尾市	R4年度に荒尾市の観光案内看板を一元的に管理し、効果的な誘導を図るため、既存看板のデータベース化に取り組んだため、データを活用し効果的な誘導を実施する。
連施誘携設客強と拠点の点	キャッシュレスの推進		
	Arao PAY	荒尾商工会議所	地元店舗と大型店舗等のバランスを調整し、利用者ニーズを踏まえて地域経済の循環を目指す。デジタル商品券のみの販売を行い、デジタルに抵抗のある高齢者等にも十分なフォローを行い、荒尾市全体で「AraoPAY」の導入促進を図る。
連施誘携設客強と拠点の点	誘客拠点施設からの送客強化		
	荒尾観光デジタルスタンプラリー	荒尾市	観光×交通アプリ「おでかけあらお」を活用してデジタルスタンプラリーを開催。参加賞及びスタンプ収集達成者への賞品を配付予定。
	宿泊プランの充実と「新たな旅のスタイル」の推進		

宿泊旅行の推進	ワーケーション推進に向けた実証事業	荒尾市	R4年度の取り組みを検証し、移住定住型または、企業誘致型での取り組みを進めていく方針を検討する。
	宿泊施設の魅力向上		
	宿泊施設連絡会議の開催	荒尾市	各宿泊施設の現状について情報共有を図るとともに、それぞれの魅力向上に向けた方向性等について協議するため、全宿泊施設を参集した連絡会議を定期的に開催する。
広域連携の推進	広域的な情報発信の強化		
	荒尾干潟水鳥・湿地センター・金魚と鯉の郷広場交流促進事業	荒尾長洲地域資源活用推進協議会	荒尾干潟水鳥・湿地センター及び金魚の館をフックとして、有明海沿岸域への誘客促進及び認知度向上を図るため、JR新玉名駅、万田坑、有明フェリー（多比良港）で、荒尾・長洲地域独自の体験イベント（金魚すくい、貝殻アート等）を実施する。また、R4年度に開始したレンタサイクル事業について、実績を踏まえながら周遊促進に繋がる活用方法の検討を進める。
	有明定住自立圏域におけるSNSを活用した情報発信事業	有明定住自立圏域広域観光振興部会	SNSを活用したコンスタントな情報発信及び「食」をテーマとしたフォトコンテンツにより圏域への誘客を図る。また、佐賀空港デジタルサイネージでの観光PR動画上映により、インバウンドに向けた情報発信を行う。
	特産品の販路拡大		
	観光列車「36ぷらす3」でのおもてなし事業	荒尾・玉名地域観光推進協議会	JR九州が運行する観光列車「36ぷらす3」乗客に対するおもてなし事業として、博多駅～玉名駅区間の車内乗り込み観光PR及び玉名駅停車時間での駅構内物産販売により、荒玉地域で面となった情報発信を実施し、地域全体の認知度向上を図る。

基本方針4 人材育成・観光地域づくりの推進

基本施策	事業名	実施主体	概要
観光地域づくり組織の構築	観光地域づくり人材の確保・育成		
	地元学生との意見交換	荒尾市	地元学生と意見交換を行う機会を設け、相互理解を深めるとともに、効果的な事業展開につなげる。R5は、JRの主催するウォーキングイベントに、九州看護福祉大学が参画して企画立案を行いイベントを実施する。
	観光DX（データ活用）の推進		
	データ収集及び利活用	荒尾市 荒尾市観光協会 荒尾市商工会議所	スマートフォンアプリのGPS機能を利用した人流情報分析を実施。年間10施設をスポットに設置し、滞在人数・滞在時間、出発地の分析を行う。 AraoPayから得られるデータを活用し、今後の活用方法について検討する。
	エリアマーケティング実証事業	荒尾市	Googleビジネスプロフィールなどを活用し、エリアコンパスにて、人流や検索結果等をもとに今後の活用方法を検討する。